

お客さまこんにちは

横浜市電保存館

〒235-0012 横浜市磯子区滝頭3-1-53
☎045-754-8505 <https://www.shiden.yokohama>

保存館では最も古い523号車。500型と呼ばれる、1928（昭和3）年に同市電が導入した中の1両です。導入時のままの塗装を再現してあります。

中には、美しい彫刻をあしらった木製の手すり、アーチ型の天井屋根、木枠の窓枠など、当時の職人の技術、昭和レトロの魅力が詰まっています。

他の鉄道従事者が「鉄で造ってあるのに鉄造とは思えないほど」「曲線がモダンで美しい」と評する車両に、直に触れられるのもうれしいですね。また、この車両は、足踏みペダルでゴングを踏み鳴らす「フート・ゴング」を装備しています。「出発時に『チンチン』と鳴らした最初の車両がこの500型。『チンチン電車』の愛称もこの車両から始まったのですよ」と副館長の渡辺さま。運転席に入り、ゴングを鳴らせるのも横浜市電保存館ならではの体験です。

ほかに、製造時期や形などがさまざまな1000型、1100型、1300型、1500型、1600型、10型（無蓋電車）の車両が展示されています。

車両は当時のままの標識のある停留所に停車。広告表示も当時のまま、まさに50年以上前にタイムスリップ、できます。

見たいと訪れることも。外国人のお客さまも増えているそうです。

停留所も移設

では早速、エントランスを抜けて50年前にタイムスリップ、最初に目に入ってくる車両が、



館内では、50年以上前の当時そのままに市電車両7両を保存展示

横浜市電7両を保存展示

横浜市磯子区、横浜市交通局滝頭営業所に隣接する市営住宅の1階。鉄道と無縁そうな場所にあるのが「横浜市電保存館」。1972年3月まで市民の足として活躍した横浜市電の7両が、50年の時を超えて保存・展示されています。

「来館者は、市電が現役だった往時を懐かしむご年配の方、お子さま連れ、年代を問わない鉄道ファンの方々と多様です」と話すのは、事務主任の小池恵さま。最近ではアニメ映画『コクリコ坂から』のファンが映画に登場した車両を



523号車の車内。木目調の背もたれやアーチ形の天井が優美に見えます



523号車の運転台。フート・ゴングで「チン」と鳴らすこともできます



停留所も当時使用していたものを移設しています



車内には電車運転系統図や時刻表、広告なども当時のまま展示しています

波乱万丈、70年の歴史

ここで、横浜市電について、少しご紹介しましょう。

横浜市電は、1904（明治37）年に株式会社横浜電気鉄道として開業。その後、横浜市に運営が移り、モータリゼーションの進展に伴って1972年3月に惜しまれつつ廃止されるまで約70年間、横浜市を中心部を縦横に結んでいました。

その間、1923年の関東大震災では車両の半数以上を失い、1カ月間全線不通に。また、1945年5月29日の横浜大空襲では、202両のうち45両を失うなどしましたが、この苦難を乗り越え、役割を全うしました。

「こちらに保存されている車両は本来、解体される予定のものだったのですよ」と渡辺さま。

市電廃止後、市電車両はすべて解体が予定されていました。しかし、横浜市電廃止当時の運転士や整備士たちの多くは、「車両を後世に伝えたい」という強い思いがありました。

そこで、職員らで「保存会」を発足。翌1973年8月25日に、一般財団法人横浜市交通局協会が車両工場跡地に横浜市電保存館を開館しました。それが、この滝頭



歴史コーナーでは、戦前の車掌制服も展示しています



模型ジオラマ「ハマジオラマ」では現代の横浜の街並みを現役車両に交じって市電車両が駆け抜けていきます

という土地に保存館がある理由なのです。

館内には、横浜市電の歴史を伝える歴史展示コーナー、昨年7月に開館50周年を記念してオープンした9mを超える巨大な模型ジオラマ「ハマジオラマ」、市電シミュレーターなど、魅力がいっぱい詰まっています。

切っても切り離せない関係

当協会に対しては「電気、という面では、電車と電気は切っても切り離せないもの。古い車両を保存している当館では、空調設備が止まることが許されません」と渡辺さま。一方で「ハマジオラマは、模型電車やスポットライトへ安定した電気が必要不可欠。それを保



副館長の渡辺さま(右)と事務主任の小池さま

守・点検している関東電気保安協会さまには本当に感謝しています」とありがたい言葉を頂戴しました。

今後も、車両の保存に、快適な空間づくりに、電気安全の面から協力してまいります。

MEMOメモ

営業期間：9時30分～17時（入館は16時30分まで）

休館日：●月曜日（祝日の場合は翌日）

※春休み、夏休み、年末年始を除く冬休み期間中は無休

●年末年始（12月29日～1月3日）

※令和6年4月1日より休館日が水曜日及び木曜日となります。

（祝日は開館）

料金：大人（高校生以上）300円／3歳から中学生 100円

優待制度料金

●65歳以上…200円

●ICカードによる市営バスでの来館、または市営バス1日乗車券による来館…大人（高校生以上）200円／3歳から中学生 50円

●団体割引（20名以上）

…大人（高校生以上）200円／3歳から中学生 50円

●障害者手帳をお持ちの方は、付き添いの方1名を含め無料

※記事は3月1日現在です。詳細は直接施設へお問い合わせください。